

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3770102675
法人名	医療法人社団青冥会
事業所名	認知症高齢者グループホーム第五若葉荘
所在地	香川県高松市三谷町1643番地1 (電話)087-888-0202

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年8月19日	評価決定日	平成20年9月18日

## 【情報提供票より】(20年7月1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年11月4日
ユニット数	3ユニット 利用定員数計 27人
職員数	25人 常勤 13人, 非常勤 12人, 常勤換算 23.0人

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,650円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,300円		

### (4)利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	27名	男性	9名	女性	18名
要介護1	3名	要介護2	9名		
要介護3	10名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	55歳	最高	96歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団青冥会 ミタニ藤田病院、松の内歯科病院
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道から少し奥まわって田んぼに囲まれ、広々とした駐車場や庭があり、落ち着いた雰囲気の中で玄関を中心に3ユニット配置されている。利用者もユニット間を行き来している。  
暖かなゆとりある空間で生活時間、生活行動範囲も利用者個々の生活ペースに合わせて、職員が利用者向き合い、目線を合わせた生活支援をしている。また、隣接した協力医療機関との連携が確保されていて、緊急時の対応も安心できる生活支援体制が整っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営理念の分かりやすい明示、災害時の避難経路の再確認と明示について改善されている。地域密着型サービスとしての事業所の在り方については、困難なところもあるので模索中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が参加して自己評価を作成しており、自己評価の意義を理解し関心は高まっている。全職員が、これから具体的改善点を共有し改善に取り組んでいく。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>本年度より、メンバーに民生委員が加わっており、事業内容の報告、メンバーからの意見や地域交流を深めるための助言を受けている。今後、地域の交流、災害時の協力体制、市町との連携の実現が運営推進会議の課題である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時職員は、家族が話しやすい雰囲気の中で対応するように心掛け、意見、要望を聞くように努めている。家族からの意見は管理者、職員で共有し対応している。定期的に家族にホームでの暮らしぶりを便りで報告しているが、職員の異動状況も何らかの方法で伝えることが望まれる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>外出支援の時に地域との交流の機会はある。地域との連携は今後の課題であるが、運営推進会議での意見からも、地域との連携を活かせる手が見られる。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で“家庭的な雰囲気作り、楽しい共同生活、一人ひとりに即した援助”とし、“心ある介護”を実践することを理念としてつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	前回の外部評価を受け、理念を職員、利用者が目につく所へ大きく明示している。申し送り、関わりの振り返りの時にも理念に沿った支援ができてきているかどうか、確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭やお祭りにも利用者と共に参加している。近所の方が野菜や花を届けてくれて、一緒にお茶を楽しむこともある。また、今年から利用者の作品を地域の小学校のバザーに出品予定である。	○	利用者は孫のような世代に心を開き明るい表情になるので、近隣の保育園、幼稚園児などが遊びに来てくれるなど、交流の幅が広がることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の目的や意義を理解し、自己評価を職員も取り組んでいる。また、外部評価の結果を踏まえ改善に取り組んでいる。評価が話し合いの場、他人の意見を聞く場となりサービスの質の向上につながっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では前回に取り上げられた検討事項についてその経過を報告している。今年度よりメンバーに民生委員も参加され、定期的に連絡が取れている。運営推進会議で自己評価結果の内容は説明し、議題にあがった内容に早めに対応できるよう意見交換している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは運営推進会議で意見交換は行っているが、事業所として、市町村との連携を深める家族介護教室やホームの開放などの構想はあるが、実現に向けて一歩踏み出すまでには至っていない。	○	市への書類は、法人本部の職員が届けているが、事業所の職員が届けるなど日常的な接点を大切に、市の担当者にその時々困りごとなどの質問、相談を行い、事業所の独自性を出したサービス向上に取り組むことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2か月ごとに居室担当者が自筆で暮らしぶりやレクリエーション時の状況、金銭出納帳のコピーを家族に送っている。また、自己評価結果や外部評価結果も送付し報告しているが、職員の異動状況の報告が十分ではない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているが、今までに苦情などの指摘はない。家族の意見、不満、苦情など言いやすい雰囲気づくりに心掛けており、家族は直接職員に話している。また、家族会でのさりげない会話の中でも意見を傾聴し、サービス向上につなげている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人として職員の受け入れと異動を考えている。管理者、職員の異動は比較的多いが、異動時でも利用者にならない支援が提供できるように努めている。	○	異動時ダメージを少なくするような配慮が行われているようだが、地域密着型の認知症介護では、利用者にとって馴染みの関係は穏やかな生活を過ごすために大切であり、職員の異動を最小限にする工夫が望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間計画が職員に周知されており、毎月一回外部から講師を招き研修を実施している。参加できない人には伝達講習や日々の業務の中で学んでいる。外部研修の参加は今のところ計画していない。	○	高齢者認知症ケア向上のために、計画的に研修を受講できるよう、職員全員に受講の機会を与えることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人関係の職員との交流が主である。他の事業所とは個人的に取り組んでいる職員もおり、介護計画様式などの意見をもらったりして質向上できるように反映している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人の相談員から、利用希望の連絡を受け職員が出向き面接している。面接後、利用者家族がホームを見学に来ている。そうすることで職員と交流し、できるだけ納得してもらい、サービス開始につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年長者として見習う場面、教えられたりすることもあり、共に支えられながら喜怒哀楽を共にして生活できるように場面づくりや声かけをしている。利用者の表情は明るく、何気ない日常会話の中にも職員に感謝している場面も見られる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの中で利用者から、何かしたい事や食べたいものなど把握するように努めている。一対一の入浴、トイレ介助の時に利用者とうっかり向き合い、同じ目線で話しかけるようにしている。耳の不自由な利用者には手話で対応することにより、お互いに思いが伝わるようになっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的に担当者会議をし、本人の希望や家族の意向を聞きながら、関係する職員で意見交換を行い、利用者一人ひとりの特徴を踏まえた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、介護計画に基づく介護の概要を記録し、3か月ごとに見直しを行っている。また、骨折などの状況変化時には随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族に意向を常に聞き、墓参り、慰霊祭への参加、銀行回りなど、柔軟な支援を行っている。また、入院時様子を見に行ったり、退院時事業所が迎えに行ったりしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医とのつながりを尊重している。外来受診支援も職員が対応している。グループホームで在宅リハビリや鍼治療を週2回受けている利用者もいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期を迎えた場合、利用者、家族の要望を大切に、ホームでの生活を希望する利用者には、関係者で十分検討した上で、可能な限り、要望に応じている。最終の期間は協力病院の支援を受けている。重度化や終末期に向けた方針については意志、確認書は作成されていない。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけ、態度には利用者の自尊心、プライバシーを損なうことなく尊重されている。記録の閲覧、居室の見学にもプライバシーの確保に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のスケジュールはあるが、できる限り利用者一人ひとりの希望やペースに合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3ユニットの食事を1か所で準備している。利用者にはできる手伝いをしてもらい、専属の職員が準備し、各ユニットに配膳している。各ユニットでは職員が介助したり見守りながら食事を楽しんでいる。職員は食事介助の必要な利用者へのかかわりがあり、検食の職員だけが一緒に食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特浴と一般浴の日を基本的に決めていたが、利用者の希望や状態によって、時間帯や曜日をできるだけ合わせている。アンケートにより希望を聞いているが、夜間入浴の希望者はいない。入浴以外に足浴を希望する利用者に足浴を実施している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯たたみ、エプロンたたみ、玄関の掃除、新聞の受け取り、植木の水やり、調理の手伝い、片付けなどを利用者の役割にしている。趣味のはり絵、折り紙が壁を飾り、鉢植えが居室に置かれ、ホームに彩りを添えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にホーム周辺の散歩、週一度のお買い物、退屈している時のドライブなどで気分転換に努めている。月1～2回はレクリエーションで外出している。外出したい利用者で行きたくない利用者があるので、行きたくない利用者への働きかけと工夫を検討したいと考えている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常的には日中玄関に鍵をかけない方針である。帰宅願望が強く、何度も出かけようとする利用者に対しては職員同士が声をかけあって見守っている。どうしても対応しきれない時間のみ鍵をかけるが、職員は施錠の弊害を理解しており、極力短時間にとどめている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署に来てもらい、避難訓練を実施している。近接した同一法人施設と応援体制は確立しており、運営推進会議時でも説明しているが、地域との連携までには至っていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		○栄養摂取や水分確保の支援			
28	77	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が加わり、栄養バランスを考慮した献立に基づいて調理している。利用者の要望があれば職員が伝え、希望を取り入れている。一人ひとりの食事、水分の摂取量を把握し、記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体は、自然光を取り入れる工夫をした建物で、明るく、玄関ホールは広々している。テレビのつけ放しもなく落ち着いている。居間、ダイニング、畳コーナー共に十分に空間があり、利用者はゆったりと動いている。観葉植物が所々に置かれている。水槽でメダカを飼い、利用者が餌をあげている。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮			
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各室共に備え付けのベッド、クローゼット以外は好みでしつらえている。家族の写真、人形、はり絵、カレンダー、観葉植物など飾り、それぞれ居心地良く過ごせるよう工夫している。位牌を奉っている利用者、糖尿病の利用者は冷蔵庫を居室に置き食べ物を管理、保管している。		